

文化人類学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
文化人類学概論	アメリカ人類学における文化進化主義(1)	2	沼崎 一郎	3	火	4	1
文化人類学概論	アメリカ人類学における文化進化主義(2)	2	沼崎 一郎	4	火	4	2
文化人類学基礎講読	ジェンダー人類学入門	2	沼崎 一郎	3	火	2	3
文化人類学基礎講読	現代人類学入門	2	川口 幸大	4	火	3	4
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	3	月	4	5
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	4	月	4	6
文化人類学各論	災害人類学	2	ボレー・ベンメン・セバスチャン	6	金	3	7
文化人類学各論	博物館人類学	2	伊藤 敦規	集中(6)			8
文化人類学各論	ヨーロッパ人類学の現在	2	松前 もゆる	集中(5)			9
文化人類学演習	比較文化研究法	2	沼崎 一郎	5	火	3	10
文化人類学演習	文化人類学研究計画法	2	沼崎 一郎	6	火	3	11
文化人類学演習	Native American Literature	2	トニー・マガグナ	6	木	2	12
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大	5	水	3、4	13
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大	6	水	3、4	14

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB32401, **科目ナンバリング：**LHM-CUA201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

アメリカ人類学における文化進化主義（1）

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Evolutionism in American Anthropology (1)

3. 授業の目的と概要：

アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化進化主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。今セメスターは、ルイス・ヘンリー・モルガンとレズリー・ホワイトを中心に、19 世紀から 20 世紀前半の流れを概観する。

重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上で最も大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。

また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通した学びの方法というものを身に付けてほしい。

4. 学習の到達目標：

- (1) 学説史的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける
- (2) 講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する
- (3) 論述試験に慣れる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 背景 1 18～19 世紀の文明思想
3. 背景 2 19～20 世紀の進化思想
4. 背景 3 19～20 世紀のアメリカ社会史
5. 背景 4 19～20 世紀のアメリカ民族学・人類学
6. ルイス・ヘンリー・モルガン：人と業績
7. イロコイ同盟の民族誌から親族の比較研究へ
8. 『古代社会』における文明思想と進化思想
9. レズリー・ホワイト：人と業績
10. 『文化の科学』における文化観と進化思想
11. 『文化の進化』における文明観と進化思想
12. 『現代資本主義文化』における資本主義論
13. モルガンからホワイトへ
14. 社会ダーウィニズムとアメリカ人類学
15. 総括と学期末試験

6. 成績評価方法：

講義ノート提出（50％）

論述試験（50％）

7. 教科書および参考書：

弓削尚子『啓蒙の世紀と文明観』世界史リブレット

江上生子『ダーウィン』清水書院

8. 授業時間外学習：

- (1) 教科書を通読し、本講義の背景となるアメリカ史についての概略的な知識を得る
- (2) 個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する

9. その他：なし

授業中に、電子辞書、ノート PC（タブレット）等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学概論／ Cultural Anthropology (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB42401, **科目ナンバリング：**LHM-CUA201J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

アメリカ人類学における文化進化主義（2）

2. Course Title（授業題目）：

Cultural Evolutionism in American Anthropology（2）

3. 授業の目的と概要：

アメリカ人類学の中心的な思想のひとつである文化進化主義について、その歴史的な変遷を丁寧にたどることで、文化人類学の歴史に触れ、学問と社会の関わりについて考えることを目的とする。今セメスターは、ロバート・レッドフィールドを中心に、20 世紀前半の流れを概観する。

重要な人類学者の代表的な著作を取り上げ、そのテキストを精密に解釈するという作業を通して、重要な概念の成立と変容を学説史的にたどり、その概念を深く理解するという、人文社会科学を学ぶ上で最も大切な学問的態度とはどのようなものかを味わってほしい。

また、メモを取りながら講義を聞き、個人で復習しながら、あるいは友人たちと議論しながら、精密な講義ノートを作成するという体験を通して、講義を通した学びの方法というものを身に付けてほしい。

4. 学習の到達目標：

- （1）学説史的に概念を学ぶという、人文社会科学の基本的な学問的態度を身に付ける
- （2）講義メモの取り方と講義ノートの作り方を習得する
- （3）論述試験に慣れる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 前期の復習
3. ロバート・レッドフィールド：人と業績
4. 初期シカゴ人類学
5. メキシコ調査と農村研究
6. 「民俗文化」概念の提唱
7. 『未開社会とその変貌』（1）
8. 『未開社会とその変貌』（2）
9. 『小さな共同体』
10. 『農民社会と文化』
11. レッドフィールドの文化観
12. レッドフィールドの文明観
13. レッドフィールドの歴史観
14. レッドフィールドと文化進化主義
15. 総括と学期末試験

6. 成績評価方法：

講義ノート提出（50％）

論述試験（50％）

7. 教科書および参考書：

弓削尚子『啓蒙の世紀と文明観』世界史リブレット

江上生子『ダーウィン』清水書院

8. 授業時間外学習：

- （1）教科書を通読し、本講義の背景となるアメリカ史についての概略的な知識を得る
- （2）個人で、または友人と協力して、精密な講義ノートを作成する

9. その他：なし

授業中に、電子辞書、ノート PC（タブレット）等を利用することを推奨する。講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB32205, **科目ナンバリング：**LHM-CUA202J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ジェンダー人類学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the Anthropology of Gender

3. 授業の目的と概要：

ジェンダー人類学の民族誌的事例を初学者向けに紹介した英文テキストを読み、英文読解力の向上と、ジェンダー人類学の理論の初歩的理解を目指す。

受講生は、毎回 2-3 ページ程度予習して授業に臨み、順番に訳文を発表する。そのうえで、内容について討議する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英文読解力を養う。
- (2) ジェンダー人類学の理論の基礎と民族誌的事例を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. Ch.3 Men and Not-Men: Sexuality and Gender in Brazil p.43-45
3. Ch.3 " p.45-46
4. Ch.3 " p.47-48
5. Ch.3 " p.49-52
6. Ch.3 " p.53-54
7. Ch.3 " p.55-56
8. 第3章のまとめとテスト
9. Ch.4 Liminal Gender Roles in Polynesia p.57-58
10. Ch.4 " p.58-61
11. Ch.4 " p.61-64
12. Ch.4 " p.64-66
13. Ch.4 " p.66-70
14. Ch.4 " p.70-71
15. 第4章のまとめとテスト

6. 成績評価方法：

毎回の授業での訳文の口頭発表と修正 (50%)

筆記試験 (50%)

7. 教科書および参考書：

Serena Nanda, Gender Diversity: Cross-Cultural Variations, 2nd edition, Waveland, 2014.

8. 授業時間外学習：

毎回、3 ページ分の訳文を準備し、OneDrive の所定のフォルダにアップロードしておく。授業での討論を踏まえて、自分の訳文を修正する。

9. その他：なし

人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけよう！

科目名：文化人類学基礎講読／ Cultural Anthropology (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：川口 幸大（准教授）

講義コード：LB42305, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代人類学入門

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：

前期に引き続き、現代人類学の理論と方法とを初学者向けに紹介した英文テキストを読み、英文読解力の向上と、人類学の理論と方法の初歩的理解を目指す。

受講生は、毎回 6 ～ 7 ページ程度予習して授業に臨み、順番に各段落の要約を発表する。そのうえで、内容について討議する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英文読解力を養う。
- (2) 人類学の理論と方法の基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 人類学の歴史
3. 文化とは
4. 家族親族
5. 結婚
6. 性
7. 宗教
8. 儀礼
9. 経済
10. エスニシティ
11. 移動とグローバリゼーション
12. 観光
13. フィールドワークと民族誌
14. 人類学と社会
15. 総合討論

6. 成績評価方法：

英文要約の口頭発表と授業での討論 (50%)

学期末の要約ノート提出 (50%)

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する

8. 授業時間外学習：

毎週、6 ～ 7 頁ほどの英文を読んで、要約ノートを準備する。授業後は、授業での討論を踏まえて、要約ノートを修正する。毎回、授業前に指定されたグループで集まり、学生同士で疑問点を整理しておく。

9. その他：なし

人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけよう！

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB31403, **科目ナンバリング：**LHM-CUA203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

専門文献読解 1

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

3. 授業の目的と概要：

文化人類学には、いくつかの代表的な主題がある (家族、ジェンダー、宗教、経済、移動など)。この授業では、①まず基本文献の精読を通してそれらについての概括的な知識を得、②各主題に関連した代表的な民族誌を読み解くことで、③文化人類学の考え方と研究方法とはどのようなものかを学んでゆく。

4. 学習の到達目標：

基礎文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 文化人類学とは
3. フィールドワーク
4. 家族と親族
5. 宗教
6. ジェンダーとセクシュアリティ
7. 社会関係
8. 植民地主義
9. エスニシティ
10. 移民
11. トランスナショナリズム
12. 多文化共生
13. 観光
14. 経済
15. 人類学の応用

6. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席 [20%]、その他 (授業時の口頭発表と議論参加) [40%]

7. 教科書および参考書：

上水流久彦ほか編『東アジアで学ぶ文化人類学』昭和堂。

他の文献については授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業についての予習ノートの作成

9. その他：なし

科目名：文化人類学基礎演習／ Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB41404, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

専門文献読解 1

2. Course Title (授業題目)：

Cultural Anthropology (Introductory Seminar)

3. 授業の目的と概要：

文化人類学には、いくつかの代表的な理論や方法論がある（機能主義、構造主義、ジェンダー論、開発人類学など）。この授業では、①まず基本文献の精読を通してそれらについての概括的な知識を得、②各理論をもとに書かれた代表的な民族誌を読み解くことで、③文化人類学の理論と研究方法とはどのようなものかを学んでゆく。

4. 学習の到達目標：

専門文献の講読を通して、文化人類学の理論と研究方法について学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 文化人類学の練習問題
3. 文化進化論＋文化伝播主義
4. 文化相対主義
5. 機能主義
6. 構造主義
7. 象徴人類学＋解釈人類学
8. エスニシティ論
9. 環境人類学
10. 医療・身体論
11. ジェンダー論
12. 開発論
13. 観光人類学
14. 多文化主義論
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]、出席 [20%]、その他（授業時の口頭発表と議論参加） [40%]

7. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業についての予習ノートの作成

9. その他：なし

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン（兼務教員）

講義コード：LB65205, **科目ナンバリング：**LHM-CUA301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

災害人類学

2. Course Title (授業題目)：

Anthropology of Disaster

3. 授業の目的と概要：

文化人類学における 21 世紀の幕開けは、ますます増え広がる「災害」と呼ばれる現象によって特徴付けられる。Disaster という言葉は、自然災害（地震、ハリケーン、津波、洪水、火山噴火）、人為的事故（戦争、テロ、飛行機の墜落、列車の脱線事故、原子力災害、自動車事故）、環境と健康危機（飢饉、疾病、汚染、熱波）など様々な現象を含んでいる。災害という概念と発展とを踏まえ、本講義では、災害の類型、リスク、脆弱性、レジリエンス、連帯、トラウマ、メモリといった災害の人類学に関する共通の問題とテーマのいくつかを紹介する。これらの概念を用いて、本講義では災害を理解し対処する方法について災害人類学者が貢献する方法の一部を提示することを試みる。そうすることで、災害にかんする自分自身の理解を深めるとともに、人類学的知識を応用することに関心を持つことを、本講義を通じて提供することを願う。

4. 学習の到達目標：

1. 災害問題について理解を深める。
2. 災害にかかわるさまざまな実践を知り、それを文化人類学の視点から批判的に捉える。
3. 受講生一人ひとりが災害問題に関してできることを具体的に考える。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. イントロダクション：現代世界における災害
- II. 人類学の視点から見た災害災害
- III. 災害に関する宗教団体の理論
- IV. 災害に関する自然科学の視点
- V. 映画スクリーンく 1: 災害の環境的と文化的の側面は何か
- VI. 災害時の社会的連絡
- VII. 災害における脆弱性
- VIII. 減災におけるレジリエンス
- IX. 被災者のコミュニティの強制変位
- X. 災害後の復興と社会正義
- XI. 災害における死と追悼のポリティクス
- XII. 博物館に災害の記憶と表示
- XIII. 災害ツーリズム
- XIV. 映画スクリーンく 2: 災害対応に携わるグループと各自目指
- XV. フィナーレ：将来の災害文化人類学

6. 成績評価方法：

出席、コメントとワークショップのレポートを総合して評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書はなし。読書リストを教室で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

読書（論文とチャプター）を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。

9. その他：なし

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中(6), 単位数：2

担当教員：伊藤 敦規 (非常勤講師)

講義コード：LB98829, **科目ナンバリング：**LHM-CUA301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

博物館人類学

2. Course Title (授業題目)：

Museum Anthropology

3. 授業の目的と概要：

世界の民族集団の文化や生活様式を伝えるために民族学博物館が作られてきた。スミソニアン協会の国立自然史博物館、アメリカ自然史博物館、大英博物館、オランダ国立民族学博物館、ロシアのクンストカメラ、日本の国立民族学博物館といった大規模な機関から、大学附属博物館や地域博物館までさまざまな形態がある。どの機関も創設から現在まで展示替えを繰り返し、博物館活動を改良してきた。本講義では、文化人類学における物質文化研究や民族学博物館の諸活動を俯瞰的かつ時系列的に理解すると共に、現代の博物館活動を行う上で重要な視点となっているソースコミュニティの人々との協働や民族誌資料のデジタル利用に際する著作権処理の問題といった最新の事例も学ぶ。国立民族学博物館が貸し出しているキットを用いて実際に民族誌資料に触れたり、キャプションの付され方などを学んだりすると共に、仙台市近郊の博物館を訪問し、民族誌・民俗資料の展示されている様子も実見する。こうした活動を通して、色々な展示実践を文化人類学的な視点に則って批判的に捉えられるような視点を養う。講義や演習の形式で授業を進めると共に、受講者には民族誌資料のサンプルを使用したモノや情報の収集と整理と展示を実践的に学ぶための課題を課す。

4. 学習の到達目標：

1. 博物館活動や民族誌資料に関する人類学的な理解を深める
2. 民族誌資料展示の理解の仕方を習得し、文化人類学的視点から批判的に捉えられるようにする
3. 資料展示のやり方を実践的に習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに 講義内容と方法の説明
2. 文化人類学における物質文化研究
3. 博物館活動：モノの収集、整理、保存、保管、研究、展示、返還
4. 欧米の民族学博物館と民族誌展示
5. 日本の民族学博物館と民族誌展示
6. 博物館とソースコミュニティの人々との協働
7. 民族誌展示におけるデジタル機器利用
8. 民族誌資料の著作権処理と孤児著作物化の問題
9. 『民族誌資料展示会』開催の趣旨説明
10. 校外学習、展示会・展示場実見
11. 校外学習、展示会・展示場実見
12. 校外学習、展示会・展示場実見
13. 『民族誌資料展示会』制作
14. 『民族誌資料展示会』制作
15. 『民族誌資料展示会』講評

6. 成績評価方法：

出席、課題レポート、『民族誌資料展示会』制作作品ならびに講評への参加

7. 教科書および参考書：

『展示する人類学』（高倉浩樹編、昭和堂、2015）

『国立民族学博物館収蔵「ホビ製」木彫人形資料熟覧——ソースコミュニティと博物館資料との「再会」1』（伊藤敦規編、国立民族学博物館、2017）

8. 授業時間外学習：

『民族誌資料展示会』の制作に関して、講義時間中の完成が困難な場合は、授業時間外学習を行う。

9. その他：なし

校外学習、展示会・展示場実見の会場は仙台市内か近郊の機関を予定していますが、講義初日にお知らせします。移動費と入場料は自己負担とします。

『民族誌資料展示会』制作の回については、ノートPCやタブレット端末の利用を推奨する。

講義予定は、諸般の事情により変更することもありうる。

科目名：文化人類学各論／ Cultural Anthropology (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), **単位数：**2

担当教員：松前 もゆる (非常勤講師)

講義コード：LB98830, **科目ナンバリング：**LHM-CUA301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ人類学の現在

2. Course Title (授業題目)：

Anthropology of Europe

3. 授業の目的と概要：

ヨーロッパをフィールドとする人類学的研究は、人類学においては後発の分野であるが、近年、日本においても、またヨーロッパ(あるいは欧米)においても、新たな研究が蓄積されつつある。本授業では、いわゆる西欧だけでなく東欧も視野に入れ、とくに体制転換と EU 拡大、移動・移住、共同性、ジェンダーといったテーマに注目しながら、ヨーロッパ人類学の最近の議論を概観したい。ヨーロッパ地域への人類学的アプローチの可能性について学ぶとともに、そこから人類学全体の議論につなげて理解を深めることが本授業の目的である。

4. 学習の到達目標：

1. ヨーロッパを対象とする人類学的研究について、基本的な知識を身につける。
2. ヨーロッパの人類学的研究を人類学全体の議論とつなげて考え、自分なりに検討できるようになる。
3. 人類学的アプローチの特徴を知り、現代ヨーロッパの諸課題・諸現象を考える視角のひとつについて理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ヨーロッパという地域と人類学的アプローチ
2. 地中海ヨーロッパの語られ方・家族、ジェンダーと「名誉と恥」
3. 家族・村落研究の古典を読む
4. 民族、国家、ナショナリズム
5. EU 統合とヨーロッパ・アイデンティティ
6. 体制転換の人類学
7. 体制転換とジェンダー体制転換の人類学②
8. 移民から見たヨーロッパ
9. 難民の人類学
10. 国際労働移動とジェンダー
11. 仕事の人類学ーヨーロッパの事例から
12. ヨーロッパにおける移動と場所
13. 国境をこえる家族
14. EU 拡大とシティズンシップ
15. 新たな共同性を考える

6. 成績評価方法：

レポート 60%、参加状況 40%により評価する。

なお、参加状況は、授業内での発言や授業後のコメント提出状況を含めて判断する。

7. 教科書および参考書：

教材は授業中に配布する。

なお、以下の本を参考書としてあげておく。

石川真作・渋谷努・山本須美子(編)『周縁から照射する EU 社会』世界思想社、2012 年。

佐々木史郎・渡邊日日(編)『ポスト社会主義以後のスラヴ・ユーラシア世界』風響社。

8. 授業時間外学習：

これまでに履修した人類学関連の授業で学んだことと本授業の内容を照らし合わせ、参考書などにも目を通して、個々の考察を深めてほしい。

9. その他：なし

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎 (教授)

講義コード：LB52308, **科目ナンバリング：**LHM-CUA302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

比較文化研究法

2. Course Title (授業題目)：

Cross-Cultural Analysis

3. 授業の目的と概要：

特定の慣習をひとつ選び、その慣習について比較文化的に考察するレポートを作成する。毎回の授業においては、各人がレジユメを準備し、それぞれの研究の進捗状況を報告して、クラス・ディスカッションを行う。

4. 学習の到達目標：

- (1) 民族誌資料検索の方法を身につける。
- (2) 文献資料から「民族誌的事実」を抽出する方法を習得する。
- (3) 「民族誌的事実」を文化横断的に比較し、人類学的に概念化するスキルを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 研究テーマの探索 1 ブレインストーミング
3. 研究テーマの探索 2 研究室所蔵の文献を調べる
4. 研究テーマの決定
5. 比較対象とする文化の探索 1 研究室所蔵の事典類を調べる
6. 比較対象とする文化の探索 2 広く民族誌を探す
7. 比較対象とする文化の決定
8. 文献収集 1 書籍を集める
9. 文献収集 2 論文を集める
10. 比較文化データベースの作成 民族誌的「事実」の収集
11. 比較文化的分析 1 民族誌的「事実」の比較検討
12. 比較文化的分析 2 民族誌的「事実」と人類学的「理論」の対照
13. 研究レポート執筆 1 序論執筆とクラス討論
14. 研究レポート執筆 2 本論執筆とクラス討論
15. 研究レポート執筆 3 結論執筆とクラス討論

なお、受講生の進捗状況によって授業の予定と内容は変更することがある。

6. 成績評価方法：

レジユメと口頭発表 [50%]

レポート [50%]

7. 教科書および参考書：

教科書： 沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書

参考書は、教室で適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

自身の研究に必要な分権の収集と読解、比較文化データベースの作成、研究レポート下書の執筆。

Dropbox を利用し、データベースおよびレポート下書の添削を行う。

9. その他：なし

3 回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：沼崎 一郎（教授）

講義コード：LB62308, **科目ナンバリング：**LHM-CUA302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

文化人類学研究計画法

2. Course Title (授業題目)：

Research Design in Cultural Anthropology

3. 授業の目的と概要：

主に卒業論文を念頭に置きながら、文化人類学的な研究を行う計画の立て方を学び、実際に研究トピックと研究テーマを選択して、それを実施するための具体的な研究計画を立案し、研究計画書を執筆する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文化人類学的な研究調査の方法論を学ぶ。
- (2) 研究計画の立て方を体得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 授業方法の説明
2. 研究トピックの探索
3. 研究トピックの決定
4. 研究テーマの探索 1 ブレインストーミング
5. 研究テーマの探索 2 研究室の過去の卒業論文の探索
6. 研究テーマの探索 3 学術誌に掲載された論文の探索
7. 研究テーマの探索 4 人類学理論書の探索
8. 研究テーマの決定
9. 研究計画書の作成 1 問題設定の執筆とクラス討論
10. 研究計画書の作成 2 理論的背景の執筆とクラス討論
11. 研究計画書の作成 3 民族誌的背景の執筆とクラス討論
12. 研究計画書の作成 4 研究方法の執筆とクラス討論
13. 口頭発表 1 パワーポイントの作成
14. 口頭発表 2 パワーポイントを用いた発表練習（前半）
15. 口頭発表 3 パワーポイントを用いた発表練習（後半）

なお、受講生の進捗状況によって授業の予定と内容は変更することがある。

6. 成績評価方法：

出席と授業参加 [25%]
レジュメと口頭発表 [25%]
研究計画書 [50%]

7. 教科書および参考書：

教科書： 沼崎一郎『はじめての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書

参考書は、授業中に適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

文献の収集と文献目録の作成、研究計画書の執筆、口頭発表用パワーポイントの作成。
Dropbox を利用し、文献目録、研究計画書の下書、パワーポイントの添削を行う。

9. その他：なし

3 回以上の無断欠席は履修放棄と見なす。

授業内容および進度は、受講生の研究状況に応じて変更する場合がある。

科目名：文化人類学演習／ Cultural Anthropology (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：トニー・マガグナ (教授)

講義コード：LB64211, **科目ナンバリング：**LHM-CUA302E, **使用言語：**英語

1. 授業題目：

Native American Literature

2. Course Title (授業題目)：

Native American Literature

3. 授業の目的と概要：

This course will explore the lives and culture of Native Americans in the United States as it has been expressed through literature. We will begin with transcribed oral narratives and continue into the oratories, essays, and memoirs that capture the devastating conflicts of “contact” between Native tribes and European and U.S. populations. The predominance of the course, however, will focus on the contemporary voices of Native Americans writing today, following the “Native American Renaissance” of the 1960s and 1970s. Here, we will discover the ongoing efforts by many Native authors to both express and celebrate their inherited cultural traditions, as well as convey an identity and voice that is very much at home in the contemporary United States—and in the global community.

4. 学習の到達目標：

1. To understand the diverse histories and cultures of Native Americans, as represented in oral tradition;
2. To understand the consequences of European contact and U.S. conquest of Native American tribes;
3. To recognize the misrepresentations of Native

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. Introductions & Opening Conversation
- II. Imagining Native America Today: Clichés & Controversies
- III. Origin Stories
- IV. Cautionary Tales & Trickster Tales
- V. European Contact
- VI. Conquest & Displacement
- VII. Re-Education & Assimilation: Boarding Schools
- VIII. The Native American Renaissance: Part I
- IX. The Native American Renaissance: Part II
- X. “Wisdom Sits in Places:” Landscape & Identity
- XI. Pop Culture Indians: Misrepresentations
- XII. The Next Generation: Overview of Contemporary Native Writers
- XIII. Louise Erdrich
- XIV. Sherman Alexie
- XV. Student Presentations: Native America Abroad

6. 成績評価方法：

Mini written responses (20%); Presentations (25%); Participation (25%); Final short essay (30%)

7. 教科書および参考書：

All required texts will be made available at the beginning of the course, either digitally or as handouts.

8. 授業時間外学習：

Students are required to read designated material in advance and to prepare for their active participation in the discussion. As assigned, students are required to prepare for their own presentations. Additionally, please note that all instruction, discuss

9. その他：なし

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB53312, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目)：

Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目指す。前期は主として調査方法と資料の種類や性質を検討し、各自の関心に即した調査計画の立案をはかる。

4. 学習の到達目標：

文化人類学のフィールドワークの方法と民族誌の記述の仕方を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 問題領域の確認
3. 過去の実習テーマの検討
4. 調査対象の検討
5. 調査対象の決定
6. フィールドワークの報告と討論①
7. フィールドワークの報告と討論②
8. フィールドワークの報告と討論③
9. フィールドワークの報告と討論④
10. フィールドワークの報告と討論⑤
11. フィールドワークの報告と討論⑥
12. フィールドワークの報告と討論⑦
13. フィールドワークの成果発表①
14. フィールドワークの成果発表②
15. フィールドワークの成果発表③

6. 成績評価方法：

出席[30%]、平常点[40%]、レポート[30%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示する

8. 授業時間外学習：

フィールドワークの遂行とフィールドノートの作成

9. その他：なし

科目名：文化人類学実習／ Cultural Anthropology (Field Work Methodology)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時. 後期 水曜日 4講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：川口 幸大 (准教授)

講義コード：LB63312, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フィールドワーク実習

2. Course Title (授業題目)：

Fieldwork

3. 授業の目的と概要：

現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。後期は各自の立案した調査計画に基づいて調査を行い、その途中経過を授業で討議しながら、それぞれの調査を完結させ、その結果をまとめる。

4. 学習の到達目標：

文化人類学によるフィールドワークを行い、報告書を作成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. テーマと実施計画の再確認
2. フィールドワークの報告と討論①
3. フィールドワークの報告と討論②
4. フィールドワークの報告と討論③
5. フィールドワークの報告と討論④
6. フィールドワークの報告と討論⑤
7. フィールドワークの報告と討論⑥
8. 理論の検討①
9. 理論の検討②
10. 理論の検討③
11. 報告書の作成に関する説明①
12. 報告書の作成に関する説明②
13. 受講者の報告書の検討①
14. 受講者の報告書の検討②
15. 受講者の報告書の検討③

6. 成績評価方法：

出席と平常点 [50%]

報告書 [50%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示する

8. 授業時間外学習：

フィールドワークの遂行とフィールドノートおよび実習報告書の作成

9. その他：なし